

九州地整港湾空港部「サーキュラーエコノミーポート選定証手交式」開く

国土省が全国29港初選定、九州管内は三池港、北九州港



サーキュラーエコノミーポート選定証手交式での記念撮影



挨拶する久田副局長

九州地方整備局は15日、福岡市の東福第二ビル（博多区）において、サーキュラーエコノミーポート選定証手交式を開いた。式では三池港（港湾管理者・福岡県）と北九州港（同・北九州市）に、久田成昭副局長から選定証が交付された。

サーキュラーエコノミーポート（循環経済拠点港湾）は、循環型社会の形成に向けて国土交通省港湾局が令和8年8月に全国29港を初めて選定。港湾を拠点に、リサイクル産業や関連インフラの集積を促すとともに、製品の回収から再利用・再資源化までを担う物流の効率化を図る。従来のリサイクルポートの取り組みを発展させ、増加する循環資源の流通や多様化する輸送ニーズへの対応を目指す。

式の冒頭で挨拶した久田副局長は、三池港と北九州港について、これまでリサイクルポートとして、循環資源の海上輸送やリサイクル関連産業の集積に取り組んできた実績が評価されたと説明。それぞれの特性を生かした資源循環の推進に期待を示した。三池港については、「大牟田地域の技術、あるいは企業との結びつき」を強みとして挙げ、県南部の物



福岡県へ認証書の交付



北九州へ認証書の交付

流拠点としての機能強化を求めた。一方、北九州港には「充実した物流機能、あるいは産業集積」を生かし、広域的な資源循環を支える役割の拡大に期待を寄せた。さらに、循環資源の流通量や種類の増加に伴い、輸送ニーズも多様化するとの見通しを示した。その上で、「関係企業あるいは、他の港湾との連携を深めながら」、資源循環を支えていくことの重要性を強調した。

福岡県県土整備部の山口甲秀技監は、三池港が年間約30万トンの循環資源を取り扱っていることを説明。今後については、「企業や関係機関の皆様との連携をより一層強化し、資源循環のネットワークの形成をさらに進め」、持続可能な循環経済への移行に貢献する考えを示した。

北九州市港湾空港局港湾整備部の政徳克志部長は、今回の選定では、年間250万トンの循環資源の取り扱い実績や、多様な輸送形態に対応できる岸壁、響灘地区を中心としたリサイクル産業の集積が評価されたとの認識を示した。今後は、鉄スクラップや使用済み太陽光パネル、蓄電池などの取り扱い需要を捉え「港湾における広域的な循環資源ネットワークの構築」に向けて、取り組みを進めると述べた。